

クレジット:

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義 2017中村雄祐

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



# 学術俯瞰講義「文化資源、文化遺産、世界遺産」

## 文化資源の読み書き

東京大学大学院人文社会系研究科 中村雄祐

人が文化資源に気づくきっかけは様々である。見たり聴いたりだけでなく、触ったり匂いをかいたり味わったり、あるいはなんとなくということもあるだろう。そんな中、自分が出会った文化資源について深く考え他の人に伝える方法として、読み書きは、決して万能ではないが重要な方法である。この講義では、二回に分けて、文化資源の読み書き、そして、情報技術の変化が及ぼす影響について考える。

### これまでの主な調査研究活動

西アフリカ、中南米、日本などの様々な読み書きの現場

## 1. 文化資源化、文化資源学、読み書き

「文化資源学とは、いわば既存の学問体系の側に立つことよりも、体系化のもとになった資料群の中に分け入ることから始まる。文化を根源に立ち返って見直し、資料群から多様な観点で新たな情報を取り出し、社会に還元することを目指している。・・・

また、「資源」を用いることには、「文化財」から少し距離を置くという意識がある。日本では、1950年に文化財保護法が制定されて半世紀を優に超えた。この間に文化財という言葉はすっかり定着したが、それは国や地方自治体による価値評価＝指定制度の定着でもあった。一方で指定制度の弊害も顕在化し、指定されないものの再評価も求められている。1996年に登録制度が新たに導入され、2005年に文化的景観というカテゴリーが生まれたのはこのためである。近年ではまた、ユネスコの世界遺産に刺激されて文化遺産という言葉もよく使われている。

すでに価値の定まった「文化財」でも「文化遺産」でもなく「文化資源」を用いるのは、現代の社会、現代の文化に目を向けようとする意志の表明でもある。」

東京大学文学部 2017『プロスペクタス 2017  
東京大学進学ガイダンス』 164-165.

### 人の感覚と文化資源

視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚・・・

文化資源化と読み書きと文化資源学：認識・設計・実装・経営

聞く、話す、読む、書く

### 認知的人工物 Cognitive Artifact

「心のもつパワーは過大に評価されている。心は外に助けがなければ、記憶も思考も推論もすべて制約を受ける。だが、人間の知には、高い柔軟性と適応力、そして自らの限界を超えるために道具や方法を作り出すすばらしい能力が備わっている。・・・

認知のパワーは抽象化（abstraction）と表現（representation）から生まれる。それは、知覚したり体験したり思考したりしたことから、関係のない些細な部分を捨象し、別のメディアに表現する能力のことである。これこそが知の本質なのである。つまり、表現とその処理が的確に出来さえすれば、新しい体験や洞察、創造が可能になるからだ。」

D.ノーマン 1996「表現のもつパワー」『人を賢くする道具』（新曜社）

## 読み書き・文書=象徴+道具

Blombos Cave (South Africa), 75,000BP

[https://en.wikipedia.org/wiki/Blombos\\_Cave](https://en.wikipedia.org/wiki/Blombos_Cave)

“Abstract images similar to the Blombos Cave engravings occur at Upper Paleolithic (40,000~10,000 BP) sites in Eurasia. The Blombos Cave motifs suggest arbitrary conventions unrelated to reality-based cognition, as is the case in the Upper Paleolithic, and they may have been constructed with symbolic intent, the meaning of which is now unknown. These finds demonstrate that ochre use in the MSA (African Middle Stone Age) was not exclusively utilitarian and, arguably, the transmission and sharing of the meaning of the engravings relied on fully syntactical language.”

Christopher S. Henshilwood, *et al.* 2002 “Emergence of Modern Human Behavior: Middle Stone Age Engravings from South Africa” *Science* 15 Feb 2002: Vol. 295, Issue 5558, pp. 1278-1280.

## 読み書きできる, とは

書面の多様な図的表現を読み解く

文書を循環させる

## 2. 図とは何か

“maps are graphic representations that facilitate a spatial understanding of things, concepts, conditions, processes, or events in the human world.”

Harley, J. B. & David Woodward (eds.) 1987 *The History of Cartography*, Volume I: xvi. (The University of Chicago Press)

mapping 2. a. Math. A correspondence by which each element of a given set has associated with it one element (occas., one or more elements) of a second set.

*Oxford English Dictionary* 2000

London Tube Diagram

<https://tfl.gov.uk/maps/track?intcmp=40400>

江戸切絵図

<http://www.ndl.go.jp/landmarks/edo/hongo-yushima-ezu.html>

## 3. 声と文字

(身振り、表情、) 声、文字

### 文字の表音性と表意性

History of the alphabet

[https://en.wikipedia.org/wiki/History\\_of\\_the\\_alphabet](https://en.wikipedia.org/wiki/History_of_the_alphabet)

### 分かち書きと黙読

「北ヨーロッパでは、12世紀が法律、神学、哲学、美術などにおける大いなる変革の時代であったことは広く知られている。しかし読書の歴史にとっての12世紀は、とりわけ分かち書きによるテキスト形式が継続して用いられ、定着を見た時代であった。この書記法はイギリス諸島ではすでに7世紀から存在し、11世紀には島嶼部ばかりでなくフランス、ドイツ、ローヌ地方でも一般的に使われるようになったものである。単音節の前置詞も含めた、あらゆる単語と単語の間に目に見える隙間を規則的に設けることによって、まずなによりも、読書の際に音読する必要が減じた。」

P. サンガー 2000 「中世後期の読書」、『読むこと  
の歴史—ヨーロッパ読書史』 (大修館書店)

「閲覧室ニ於イテハ一切音読談話喫煙ヲ禁ズ

戦前の図書館で作成された利用規則をいくつかみていくと、しばしばこのような条項にぶつかる。「喫煙談話」の禁止は現在でもその有効性を失ってはいないが、「音読」の禁止は現在の我々にとっては殆ど意味をなさない規定である。だが、この音読禁止規定はある重要な事実、すなわち、図書館を取り巻く読書状況がこの100年の間に音読から黙読へと大きく変化したことを、最も端的な形で表現している。」

永嶺重敏 1997 「読書空間の近代—明治の公共空間と音読規制」、『雑誌と読者の近代』 (日本エディタースクール)

## 文字とほかの図の境界線

前提：音声言語を聞き話す能力

広義の文字の条件：ある一揃いの図が対応する言語の体系的な表音記号として使われること

近代的な文字の条件：表意的工夫を駆使して、速読・黙読も可能な形、並べ方になっていること

「子曰く、書は言を尽くさず、言は意を尽くさず。然らば則ち聖人の意、其れ見るべからざるや、と。」

『易経』

## 4. 数と字と図

### ホモサピエンスの数覚 Number Sense

音声言語や道具の助けを借りなければ、人間の数覚も他の動物（ネズミ、チンパンジー等）とあまり変わりが無い。

離散的 discrete というより 連続的 continuous

3ぐらいまでは区別できるが、大きな量になるほど区別が曖昧

距離効果 distance effect

比較する数の間隔が大きいほど比較が容易になる

規模効果 magnitude effect

比較する数が大きいほど、比較が困難になる

S. ドゥアンヌ 2010 「第1部 遺伝的に受け継いだ数の能力」『数覚とは何か—心が数を創り、操る仕組み』

### 数字、文字、数式、図

数字

List of numeral systems

[https://en.wikipedia.org/wiki/List\\_of\\_numeral\\_systems](https://en.wikipedia.org/wiki/List_of_numeral_systems)

代数学

### 数の読み書きの難しさ

話し言葉と文字の関係と違って、数を扱う図の読み書きの場合、人間の側にはそれらと対応づけるような体系が生得的に存在しているわけではない。

基礎的な数覚を超える数の世界は、長い歴史の中で作り上げられてきた様々な図的表現を用いつつ、努力して習得・構築しなくてはならない。ただし、先端的な表現・内容を理解できる人は限られている。

## 5. 読み書きと文化資源化

個々の図的表現に応じた固有の認知的メカニズムがあり、図的表現はそれぞれの傾向に沿って洗練されてきた。

### 図一般：関係や構造の把握

適切に提示すればただちに把握できる。

### 文字：話し言葉と付かず離れずの視覚表現。

声や表情、さらには意をどうやって復元、想像するか。

### 数字：数量的な関係の分析と探求

生得的な数覚を超えるには、様々な図的表現を駆使しつつ各自が努力して構築しなくてはならない。

個々の図的表現に応じた固有の認知的メカニズムがあり、図的表現はそれぞれの傾向に沿って洗練されてきた。現代世界、特に先進国では、多様な図的表現を重層的に組み合わせて抽象化した表現が氾濫している。

思考、表現、伝達、共有のツールとして威力を発揮する一方で、想定外の読み方にも晒される。想定外の読みは時に問題となるが、その解決は新たな認識や活動にも繋がる。

## 6. これまでの調査から－編み物工房の文書と読み書き

### 編み物工房の文書と読み書き

ボリビアの地方都市の職業訓練NGOと共同で、当事者間の相互フィードバックを状況改善に積極的に生かしながら、3年間にわたって調査を行なった。

- どんな図的表現が使われているのか？
- 文書がどのような＜記録・保管・参照・廃棄＞のサイクルを辿っているか？

工房の運営

編み物と文書・読み書き

文書の循環と信頼

中村雄祐 2009 『生きるための読み書き－発展途上国のリテラシー問題』（みすず書房）

## まとめ 文化資源と読み書き

読み書きは、ミクロな文化資源化でもある。

図的表現の組み合わせで、人はどこまで思考や世界を表現・解釈・伝達できるか？

溜まり続ける文書をどうするか？

情報技術の革新の影響は？